

総合健診・予防医学センター

センター長 銭谷 幹 男

教授：銭谷 幹男 肝臓病学
教授：阪本 要一 糖尿病学
教授：和田 高士 健康医学・予防医学
教授：恩田 威一 周産期医学
(産婦人科より出向)
講師：高橋 宏樹 肝臓病学
講師：福元 耕 健康医学・予防医学
講師：國安 祐史 肝臓病学
(消化器・肝臓内科より出向)
講師：野木 裕子 乳腺外科学
(外科より出向)

教育・研究概要

I. 教 育

[新橋健診センター]

和田高士は、医学科3年生「ヒトの時間生物学」を担当し、加齢による人の身体変化について教育を行っている。医学研究科看護学専攻修士課程では、「がん看護学持論」、「がん看護学演習」を担当した。「がん看護学持論」は巻を席卷するさまざまな情報をどう取舍選択していくか、「がん看護学演習」ではがん治療後の社会復帰について、また代替医療、健康食品を含め、多くのがん患者が直面する問題を取り上げた。第18回日本未病システム学会学術総会にて優秀演題賞を授与された。

II. 研 究

[新橋健診センター]

日本人間ドック学会の基本検査項目の1つとして血清アルカリフォスファターゼ値（以下ALP値）がある。通常は肝・胆道系障害の指標に用いられるが、年齢、性別、血液型、および閉経により変動するとされておりその影響の程度は明らかではない。その影響を評価した。

1. 年齢・性別の観点から

2010年度当センター人間ドック受診者で肝障害（AST40IU/L以上またはALT50IU/L以上）、B型（HBs抗原）・C型肝炎（C型肝炎抗体）、腎障害（血清クレアチニン2mg/dL以上）がなく、問診票により骨疾患、甲状腺疾患、妊娠を除外し40-59歳の男性2,835名、女性1,428名の合計4,263名を対

象にした。1群：40-44歳、2群：45-49歳、3群：50-54歳、4群：55-59歳に分け差異をscheffe法により統計分析した。結果：男性は1-4群の順で195, 198, 198, 196と加齢変化はなかった。女性は1-4群の順で153, 164, 195, 226と加齢とともに増加。男性に比べ40-54歳で低く55-59歳で高値であった。

2. 血液型・閉経の観点から

前項の女性のうち45-54歳で婦人科検診を受診した389名を対象にした。45-54歳女性を血液型別分類し、閉経（平均50歳）前（前群）、閉経後3年未満（3未群）、閉経後3年以上（3後群）間で差異検討した。前群、3未群、3後群はA型151, 209, 261, B型165, 204, 207, AB型142, 245, 232, O型180, 201, 234。3未群は前群に対しO型以外で高値、3後群は全血液型で前群に対し高値であった。同対象者を前述3群に分け、血液型間の差異検討。前群のA型B型AB型O型は151, 165, 142, 180。O型はA型AB型に対して高値。3未群以下で209, 204, 245, 201, 3後群以下で261, 207, 232, 234。閉経前はO型がA型, AB型に比し高値だが、閉経後は血液型間の差異は消失した。

以上、1. 男性ALPの加齢変化はなく、女性は40-54歳では男性より低いが、50歳以降急増し、55-59歳では逆に高くなった。2. 閉経後3年未満（O型除く）、3年以上は閉経前に比較して高値。閉経のALP関与が示唆された。3. 閉経前はO型がA型AB型に比して高値だが、閉経後は血液型間の差異は消失した。

[点検・評価]

[新橋健診センター]

教育面では前年と内容に変化はなかった。

研究面では、常勤医が増加し、ある程度学会発表、論文作成を行った。

研究内容は日本人間ドック学会の基本検査項目であるALPであった。人間ドックは、色々な部門が関与し、そのレベルアップには学会発表が有効である。各部門から発表できるように指導し、総合健診・

予防医学センターにおける主な学会である日本人間ドック学会では医師より4演題、保健師より1演題、臨床検査技師より1演題で研究内容を発表することができた。

総ビリルビンは肝・胆道疾患の手がかりになる。日本人間ドック学会の基本検査項目であるの中で、基準範囲と判定区分は未発表のままである。空腹時間が長い人間ドックでは総ビリルビンが上昇する。また、総ビリルビン高値は呼吸器疾患、心血管疾患、がんとの関連が発表された。わが国の健常者における関連に関する研究が開始された。

禁煙は予防医学における重要なテーマである。和田高士は、日本人間ドック学会喫煙対策小委員会委員長、また17学会が加盟する禁煙推進学術ネットワーク委員として活動している。呼吸器内科・村松弘康非常勤講師と共同で「卒煙教室」を毎月開催し、喫煙の害を一般市民に教育している。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Takahashi H, Zeniya M. Acute presentation of autoimmune hepatitis: Does it exist? A published work review. *Hepato Res* 2011; 41(6): 498-504.
- 2) Abe M, Mashiba T, Zeniya M, Yamamoto K, Onji M, Tsubouchi H; Autoimmune Hepatitis Study Group-Subgroup of the Intractable Hepato-Biliary Disease Study Group in Japan. Present status of autoimmune hepatitis in Japan: a nationwide survey. *J Gastroenterol* 2011; 46(9): 1136-41.
- 3) 和田高士, 長谷川泰隆¹⁾, 伴 秀行¹⁾(¹⁾日立製作所). 1週間あたりの朝食摂取日数とメタボリックシンドローム発症のコホート研究. *日未病システム会誌* 2012; 18(1): 106-8.
- 4) 林 京子, 一里塚敏子, 福元 耕, 常喜真理, 稲次潤子, 豊原敬三, 中崎 薫, 真島香代子, 銭谷幹男, 和田高士. 非喫煙者における肺年齢を悪化させる生活習慣の特徴. *人間ドック* 2011; 26(1): 87-93.
- 5) 梶原一紘, 和田誠司, 野口大斗, 速水恵子, 井上桃子, 加藤淳子, 堀谷まどか, 土橋麻美子, 田中邦治, 種元智洋, 大浦訓章, 恩田威一, 田中忠夫. 出生前に強く疑われた胎児副腎神経芽細胞腫の一例. *関東連産婦会誌* 2012; 49(1): 115-21.
- 6) 大橋仁志, 内田 賢, 島海弥寿雄, 川瀬和美, 野木裕子, 加藤久美子, 神尾麻紀子, 福島久喜. 不正出血を契機に発見された小葉癌子宮転移の1例. *乳癌の臨* 2011; 26(4): 477-80.

II. 総 説

- 1) 鳥巢勇一, 銭谷幹男. 【腎臓症候群(第2版)下—その他の腎臓疾患を含めて—】各種病態にみられる腎障害 肝疾患, 消化管疾患 慢性活動性肝炎時の腎病態. *日臨* 2012; 別冊腎臓症候群(下): 586-89.
- 2) 高橋宏樹, 銭谷幹男. 【自己免疫性肝炎診療のポイント】自己免疫性肝炎の診断におけるスコアリングシステムの位置付け. *日消誌* 2011; 108(11): 1837-44.
- 3) 小野田泰, 國安祐史, 銭谷幹男. 【肝と免疫】自己免疫性肝炎 診断. *臨消内科* 2011; 26(11): 1475-83.
- 4) 銭谷幹男. 【透析患者, 移植患者の感染症へのアプローチ】肝炎ウイルス(B型, C型)の現況ならびに診断と治療. *腎と透析* 2011; 70(6): 853-8.
- 5) 國安祐史, 銭谷幹男. 【透析医療に必要な薬の使い方】透析患者のウイルス性肝炎の治療. *腎と透析* 2011; 70(4): 562-6.
- 6) 銭谷幹男. 【新時代のウイルス性肝炎学 基礎・臨床研究の進歩】C型肝炎特殊な病態におけるC型肝炎に対する対応 HCV感染透析症例の対応. *日臨* 2011; 69(増刊4 新時代のウイルス性肝炎学): 282-9.
- 7) 銭谷幹男. 【自己免疫性胆管疾患のオーバーラップ PBC/AIH, PSC/AIH と PSC/IgG4 関連硬化性胆管炎を中心に】自己免疫性肝胆管疾患の基礎病態 類縁疾患, オーバーラップの観点から 免疫臓器としての肝臓. *肝・胆・膵* 2011; 62(4): 623-7.
- 8) 和田高士. 未病の処方箋 一無・二少・三多. *日未病システム会誌* 2011; 17(1): 31-5.
- 9) 高橋宏樹. 【腎臓症候群(第2版)下—その他の腎臓疾患を含めて—】各種病態にみられる腎障害 肝疾患, 消化管疾患 原発性胆汁性肝硬変と腎障害. *日臨* 2012; 別冊腎臓症候群(下): 571-5.
- 10) 高橋宏樹. 【自己免疫性胆管疾患のオーバーラップ PBC/AIH, PSC/AIH と PSC/IgG4 関連硬化性胆管炎を中心に】自己免疫性肝胆管疾患の基礎病態 類縁疾患, オーバーラップの観点から 自己免疫性胆管疾患の病態形成へのTregの関与. *肝・胆・膵* 2011; 62(4): 645-9.

III. 学会発表

- 1) 石川智久, 北原拓也, 銭谷幹男, 岩久 章, 大石睦美, 關 伸嘉, 杉田知典, 横須賀淳, 中野真範, 相澤摩周, 鳥巢勇一, 佐藤憲一, 天野克之, 穂村厚史, 田尻久雄. 慢性肝疾患における組織学的病勢病期とALT値との相関と乖離. 第53回日本消化器病学会大会. 福岡, 10月. [日消誌 2012; 109(臨増総会): A334]
- 2) 岩久 章, 鳥巢勇一, 石川智久, 会田雄一, 銭谷幹

- 男, 大石睦美, 横須賀淳, 關 伸嘉, 杉田知典, 相澤摩周, 中野真範, 北原拓也, 佐藤憲一, 天野克之, 上竹慎一郎, 穂刈厚史, 高木一郎, 田尻久雄. 急性発症した高齢自己免疫性肝炎の臨床病理学的検討. 第53回日本消化器病学会大会. 福岡, 10月. [日消誌 2012; 109(臨増総会): A334]
- 3) 加藤秀一, 高橋宏樹, 和田高士, 銭谷幹男, 高橋宏樹, 阪本要一, 宇都宮一典. HbA1c (JDS 値) 新基準による糖尿病診断率の変化に関する検討. 第52回日本人間ドック学会学術大会. 大阪, 8月. [人間ドック 2011; 26(2): 408]
- 4) 大石睦美, 石川智久, 鳥巢勇一, 岩久 章, 石田仁也, 石黒晴哉, 小幡和彦, 澤田亮一, 横須賀淳, 杉田知典, 中野真範, 相澤摩周, 北原拓也, 天野克之, 穂刈厚史, 銭谷幹男, 高木一郎, 田尻久雄. 高齢者肝硬変における栄養学指標の乖離と臨床背景の検討. 第14回日本高齢消化器病学会. 東京, 7月. [日高齢消会誌 2011; 14(1): 88]
- 5) 天野克之, 鳥巢勇一, 銭谷幹男, 水野雄介, 岩久 章, 大石睦美, 杉田知典, 横須賀淳, 相澤摩周, 北原拓也, 小池和彦, 石川智久, 穂刈厚史, 高木一郎, 田尻久雄. 原発性胆汁性肝硬変 (PBC) 患者の長期予後に関する検討. 第47回日本肝臓学会総会. 東京, 6月. [肝臓 2011; 52(Suppl.1): A398]
- 6) 鳥巢勇一, 石川智久, 銭谷幹男, 北原拓也, 木下晃吉, 水野雄介, 大石睦美, 岩久 章, 横須賀淳, 杉田知典, 中川 良, 相澤摩周, 天野克之, 小池和彦, 穂刈厚史, 田尻久雄. 自己免疫性肝炎における組織学的病勢病期と臨床背景の比較検討. 第47回日本肝臓学会総会. 東京, 6月. [肝臓 2011; 52(Suppl.1): A252]
- 7) 中野真範, 中川 良, 佐伯千里, 及川恒一, 高橋宏樹, 本間 定, 田尻久雄, 銭谷幹男. 自己免疫性肝傷害を惹起する自己反応性 CD8+T 細胞の活性化と肝内誘導には肝内活性化 NKT 細胞が関与する. 第47回日本肝臓学会総会. 東京, 6月. [肝臓 2011; 52(Suppl.1): A251]
- 8) 高橋宏樹, 中川 良, 横須賀淳, 杉田知典, 中野真範, 相澤摩周, 北原拓也, 鳥巢勇一, 天野克之, 國安祐史, 小池和彦, 穂刈厚史, 石川智久, 田尻久雄, 銭谷幹男. 自己免疫性肝疾患 upgrade 自己免疫性肝疾患における B 細胞のサイトカイン産生動態と病態との関連. 第47回日本肝臓学会総会. 東京, 6月. [肝臓 2011; 52(Suppl.1): A124]
- 9) 本田由佳(タニタ体重科学研究所), 千葉伸太郎, 佐々木敏昭, 山谷千秋, 山口いづみ, 阪本要一, 池田義雄. 睡眠時無呼吸症候群における体格・メタボリックシンドローム (MetS)・顔面骨格の検討. 第32回日本肥満学会. 淡路, 9月. [肥満研 2011; 17(Suppl.): 150]
- 10) 加藤秀一, 阪本要一, 宇都宮一典, オルメサルタンとアゼリニジピンの併用療法における降圧非依存性尿中アルブミン減少とその予測・背景因子 CHUO-Study より. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会. 札幌, 5月. [糖尿病 2011; 54(Suppl.1): S-223]
- 11) 和田高士, 福元 耕, 常喜真理, 林 京子. 喫煙の総ビリルビンへの影響. 日本総合健診医学会第40回大会. 東京, 1月. [総合健診 2012; 39(1): 170]
- 12) 福元 耕, 國安祐史, 久保恭仁, 常喜真理, 稲次潤子, 中崎 薫, 橋本博子, 真鳥香代子, 銭谷幹男, 和田高士. 血清アルカリフォスファターゼ値に対する加齢, 血液型, 閉経の影響. 第52回日本人間ドック学会学術大会. 大阪, 8月. [人間ドック 2011; 26(2): 344]
- 13) 稲次潤子, 和田高士, 銭谷幹男, 福元 耕, 豊原敬三, 真鳥香代子, 常喜真理, 中崎 薫, 橋本博子. 血液型による ALP 異常発生率の差異. 第52回日本人間ドック学会学術大会. 大阪, 8月. [人間ドック 2011; 26(2): 342]
- 14) 國安祐史, 和田高士, 銭谷幹男, 福元 耕, 久保恭仁. 総ビリルビン高値は慢性閉塞性肺疾患の抑制要因か. 第52回日本人間ドック学会学術大会. 大阪, 8月. [人間ドック 2011; 26(2): 341]
- 15) 川津陽子, 和田高士, 銭谷幹男, 福元 耕, 一里塚敏子, 林 京子, 滝本千恵子, 阿部郁郎. 人間ドックにおける総ビリルビンの基準範囲の検討. 第52回日本人間ドック学会学術大会. 大阪, 8月. [人間ドック 2011; 26(2): 340]
- 16) 川口里恵, 伊藤由紀, 種元智洋, 和田誠司, 大浦訓章, 恩田威一, 田中忠夫. 抗リン脂質抗体陽性・陰性産科合併症例における胎盤病理の特徴. 第63回日本産婦人科学会学術大会学術講演会. 大阪, 8月. [日産婦会誌 2011; 64(2): 871]
- 17) 梶原一紘, 和田誠司, 永吉陽子, 井上桃子, 堀谷まどか, 加藤淳子, 土橋麻美子, 田中邦治, 種元智洋, 大浦訓章, 恩田威一, 田中忠夫. 胎児染色異常 87 症例の診断契機と転帰に関する検討 胎児超音波検査の重要性. 第63回日本産婦人科学会学術大会学術講演会. 大阪, 8月. [日産婦会誌 2011; 64(2): 571]
- 18) 松井仁志, 大浦訓章, 速水恵子, 梶原一紘, 堀谷まどか, 土橋麻美子, 田中邦治, 種元智洋, 林 博, 和田誠司, 恩田威一, 田中忠夫. 母体搬送後短時日のうちに分娩に至るリスクの検討. 第47回日本周産期・新生児医学会学術集会. 札幌, 7月. [日周産期・新生児会誌 2011; 47(2): 350]
- 19) 梶原一紘, 和田誠司, 井上桃子, 仲田由紀, 堀谷まどか, 加藤淳子, 土橋麻美子, 田中邦治, 種元智洋, 大浦訓章, 恩田威一, 田中忠夫. 出生前診断された副

腎神経芽細胞腫の一例. 第122回関東連合産科婦人科学会総会・学術大会. 横浜, 10月. [関東連産婦会誌 2011; 48(2): 210]

- 20) 大森禎子, 加藤久美子, 神尾麻紀子, 野木裕子, 川瀬和美, 鳥海弥寿雄, 武山 浩, 内田 賢. 乳癌術後の経過観察中に出現した肝炎症性偽腫瘍の1例. 第73回日本臨床外科学会総会. 東京, 11月. [日臨外会誌 2011; 72(増刊): 812]

IV. 著 書

- 1) 阪本要一, 宮崎 愛. 【患者さんのQuestion】インスリン注射の痛みは? インスリン注射は痛くありませんか? 高齢の私にも打てますか? 肥満と糖尿 2011; 10(3): 375-8.

V. その他

- 1) 和田高士, 山門 實, 石坂裕子, 棟方 充, 室原豊明, 中村正和, 福田 敬, 五十嵐中, 日本人間ドック学会禁煙対策小委員会. 人間ドック健診施設における禁煙指導ならびに禁煙行動調査. 人間ドック 2011; 26(4): 627-37.